



モユク・カムイ 108

NO.

108

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

April 2021

ASAHIYAMA ZOO NEWS あさひやまどうぶつえんニュース



もくじ

ぼくは動物大使 その69	
最も身近な鳥 スズメ	1.2
特集 コロナ禍の1年を振り返る	3.4
飼育研究レポート ～キリン結(ゆい)の出産～	5
動物園のお医者さんのカルテ ～動物園での今冬の高病原性鳥インフルエンザの対応について～	6
主なできごと・あとがき特別編・飼育動物数	7

スズメ

Passer montanus

スズメ

学名 *Passer montanus*

分類 スズメ目 スズメ科

ユーラシア大陸に広く分布していて、日本にも北海道から沖縄まで生息しているが、一部の離島にはいない。

日本では一年中人家など人里近くで暮らしている留鳥と考えられているが、若い個体など一部は長距離を移動することがわかっている。ヨーロッパではスズメより少し大きいイエスズメが生息しており、スズメと競合するためスズメは森林で暮らしている。そのためスズメの英名はTree Sparrow（森のスズメ）となっている。

日本を含む東アジアに生息しているニュウナイスズメという頬に黒斑がないよく似た鳥がいるが、こちらは森林で暮らしていて、季節によって移動する。

スズメの分布



濃い部分＝生息範囲



▲ 北海道産動物舎の小鳥展示では巣箱以外に、煙突のような塩ビ管も設置しています。

日本人とスズメ

スズメは日本人にとって最も身近な鳥と言えるのではないでしょうか？その証拠に、スズメに関する歌やお話が多くあります。例えば皆さん誰もが一度は聞いたことがある、童謡「スズメの学校」では、スズメ達が集団でねぐらに集まっている様子が学校に例えられて歌われています。また、昔話の「舌切り雀」では、助けられておじいさんによく懐くスズメの賢さや可愛さが書かれている一方で、糊を食べてしまうというところからは稻穀を食べる害鳥としてのスズメの扱いも感じることができます。

ぼくは動物 最も身近な鳥

大使 その69 ～スズメ～

からだ

全長 14.5cm
オスメスで同じ模様。
幼鳥は嘴が黄色く、
頬の斑も薄い。

繁殖

春から夏にかけてが繁殖期
で、産卵を2回以上の複数回行う
こともある。

巣は木の洞など自然のもの以
外にも家屋の隙間や煙突の中な
ど人工物にも作る。

1回に4~8個の卵を産み、オス
メス交代で抱卵する。抱卵期間は
10~14日で、孵化後2~3週間で
巣立つ。



たべもの

植物の種子や虫などの雑食性。ヒナを育てる
時には栄養価の高い虫を多く与える。

鳴き声

チュンチュンやジッジッなど、繁殖期以外に
も仲間とのコミュニケーションを行う。

頭の良さ

人の近くで暮らしているためか、小ささに似合わず頭はよい。動物園で保護されて人工育雛したスズメは飼育係をよく認識して、餌を取り替えに行くとよってきたりすることもある。

数

2008年の研究報告では日本にいるスズメを1800万羽と推定している。多く感じるかもしれないが、これは大きく数を減らしたと考えられている。原因としては住宅環境が変わり、スズメが巣を作れるような隙間が減ったことや、市街地に餌となる虫が発生する地面や植物が減ったためと考えられている。

人に近く依存しているスズメだからこそ、人の活動によって大きく数を減らす可能性がある。

味

かつてはスズメは主に焼き鳥などで食べられていた。しかし、家畜化されたニワトリなどが普及した結果、次第になくなっていたが、今でも一部の焼き鳥店や名物となっている京都伏見稻荷の門前などで食べることができる。特に丸焼きにした脳みそが美味しいとされている。スズメは狩獵鳥獣なので、決められた期間と方法に従えばとることもできる。可愛い姿から「かわいそう」と思う方もいるかもしれないが、鹿や猪など現在もジビエとして出回っている動物もあることからも、食文化として残っていくのだと思われる。



スズメと他の生き物たち

スズメは小さいものの例えとして、「雀の涙」などの慣用句に用いられています。そのため、魚の「スズメダイ」や植物の「スズメノエンドウ」などは他の仲間に比べて小さいため「スズメ」と名前についています。一方で蜂の「スズメバチ」や蛾の「スズメガ」などは大きいため「スズメ」とついています。これらはスズメくらい大きいという意味からきています。小さい意味でも大きい意味でも使われる「スズメ」はまさに日本人にとってのものさしなのかもしれませんね。

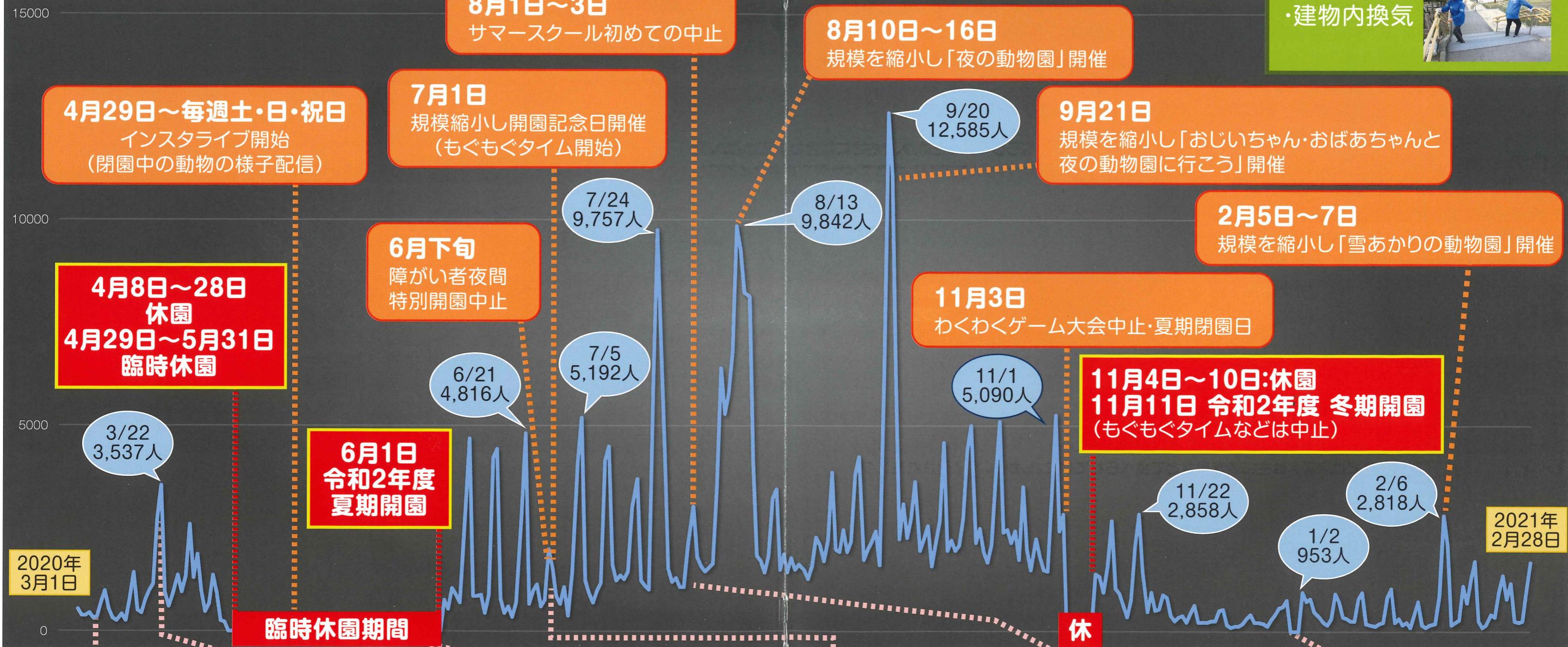


旭山動物園ではスズメの人工繁殖(孵卵器で孵化させて、人が育雛する)で日本動物園水族館協会の繁殖賞を受賞しています。

コロナ禍の1年を振り返る

この1年は、新型コロナウイルスに振り回された1年となりました。

臨時休園から始まり、イベントの中止や制限など1年間で起きたことはたくさんありました。この1年を入園者数のグラフとともに振り返ります。



新型コロナウイルス対策としてたくさんの寄付をいただきました!
本当にありがとうございました!!
寄付金額1,442,600円+マスク等の寄付多数

園内の新型コロナ対策

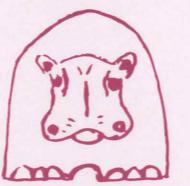
- ・スタッフのマスク着用
- ・手すり消毒
- ・建物内換気





飼育研究レポート

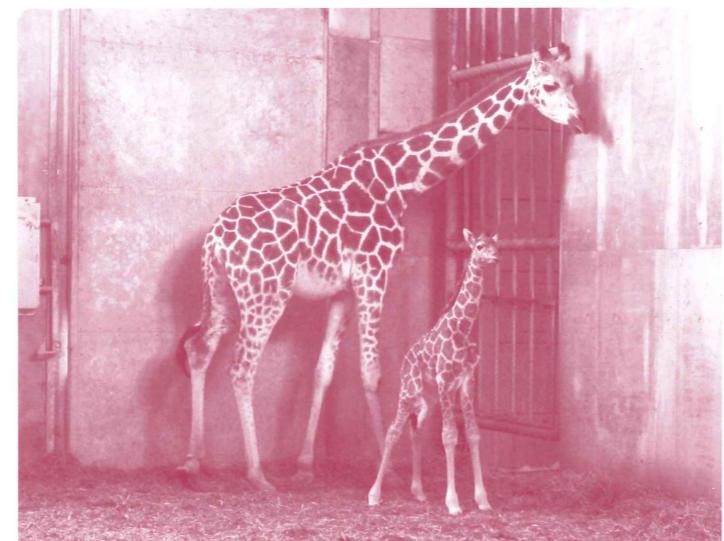
～キリン結(ゆい)の出産～



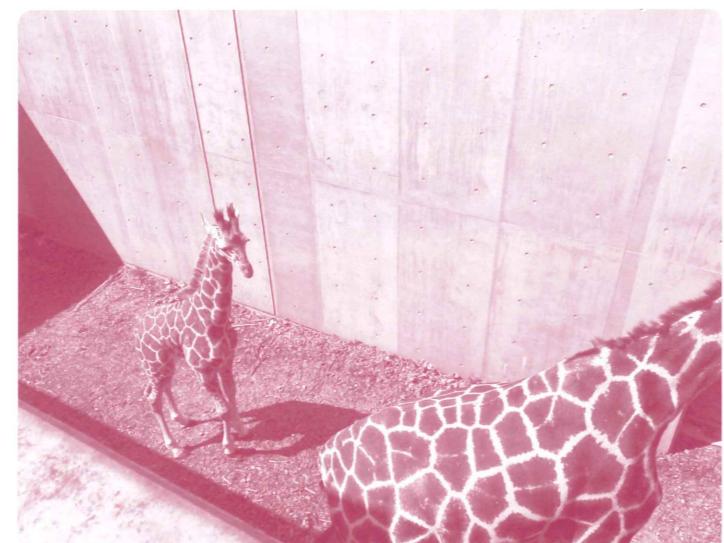
昨年の12月28日に無事、キリンの赤ちゃんが生まれました。このレポートではキリンの交尾から妊娠、出産までについてお話ししたいと思います。キリンのメスは2週間に一度、発情が起こります。発情が来てもメスの結は特に変わった様子はありません。しかし、オスのゲンキはまるで別人(別キリン?)になります。普段のゲンキはおっとりしているのですが、この時は目が血走り、鼻息も荒くなり、部屋の中をぐるぐると歩き回るのです。そして、外に出すと、真っ先に結のそばに行きずっと一緒にいて離れません。2019年の10月3日、結に強い発情がきました。ゲンキは朝から興奮しており、ぴったりと結のそばを離れません。11時30分頃、ゲンキが結の後ろから結に乗つかりました。これがキリンの交尾です。まさに一瞬の出来事です。その日の夕方、ゲンキはおっとりしたいつものゲンキに戻っていました。そしてこの後、結には発情が来なくなりました。妊娠するとメスには発情が来なくなります。前回の結の妊娠期間が448日だったので、2020年12月22日に出産するだろうと予測しました。そして迎えた12月22日。朝、様子を見に行くと、まだ生まれていませんでした。もう少しかかるのかとやきもきしていたところ、12月28日の夕方、ついに出産が始まったのです。交尾から454日のことです。直接見てしまうと、結が驚いてしまうので、結の寝室から離れた場所でカメラのモニターを見ながら出産を見守りました。出産直後、赤ちゃんはぴくりとも動かなかったのですが、結が体をなめると動き出し、震える足で立ち上りました。何回か立っては転びを繰り返した後、しっかりと立ちゆっくりと歩き始めました。そのまま結のおっぱいに近づき、初めての授乳をおこないました。飼育係でも出産のシーンに立ち会うことは非常に珍しいことです。結の母性と、赤ちゃんの生きようとする力を見ると言葉にならない感情がこみ上げてきました。生まれた赤ちゃんはオスで、背の高さは175cmも

ありました。その後、順調に生育し、2か月たった今では背の高さは220cmになりました。最近乾草を食べたり水飲みから水を飲み始めました。外の放飼場にデビューするのは春になってからですが、キリン舎の外にモニターを設置し、寝室の様子を見るができるようにしています。お時間があれば、ぜひご覧いただければと思います。また、公式SNSを通じても親子の様子を配信していますので、ご覧ください。

(獣医師・キリン担当 佐藤)



産まれたばかりのキリンの赤ちゃんと結



最近の様子。外にも出られるようになりました。

動物園のお医者さんのカクテ

～動物園での今冬の高病原性鳥インフルエンザの対応について～



今年は国内で高病原性鳥インフルエンザ(以下HPAIとする)の感染により、養鶏場で大きな被害が出ました。養鶏場でHPAIが発生するのは大体11月から翌年5月で、カモ類や猛禽類でウイルスが検出されたというニュースもほぼ同じ時期になります。なぜ養鶏場での発生と野鳥でのウイルス検出の時期がほぼ同じなのでしょう。その理由はカモ類の渡りにあります。



渡って来たガン、カモ、ハクチョウ類

カモたちは11月頃に越冬のために日本各地に南下してきます。それらがHPAIウイルスに感染していた場合、越冬地である日本にウイルスを持ち込みます。そして、そのウイルスが何らかの経路で、感受性が高い上に密な環境で飼育されている鶏に感染してしまうと、大きな被害が出てしまうのです。一方猛禽などで散発的にウイルスが検出される原因は、感染したカモ類を捕食した個体がウイルス感染によって弱ったり死亡したりするからです。日本では野鳥の調査は環境省が主体で行っています。HPAIウイルスは鶏には致死的なウイルスですが、実は野鳥では種類によってウイルスへの感受性が違っているので、症状の出やすさなどを考えて検査を優先する種類を3段階に分けています。この調査によりウイルスの早期発見と感染の広がりを把握することができ、警告を発することができます。

さて、本園でも発生させないため普段から対策を講じています。といつても特別な対策というわけではなく通常から行っている長靴や手指の消毒対策や動物舎への物品の持ち込みは消毒してからといった形です。また、来園者には入園時に靴底消毒を実施しています。そして今年、旭川市でも野鳥でのウイルスが検出され、本園が発生地から10km圏内の野鳥監視重点区域に含まれたため、対策を一段あげる必要に迫られました。作成していた対策マニュアルに従って、園内への車両の進入を最低限にし、進入車両のタイヤ消毒と搭乗者の靴裏消毒、感受性の高い家禽類の展示を中止し隔離しました。またペンギンの散歩をふくむ園内での鳥類の管理区域外飼育を中止しました。幸いなことにその後野鳥での発生はなく、2/26で30日間にわたる野鳥監視重点区域指定は無事解除されました。本園ではこのような状況は初めてでしたが、大きな混乱もなく対応できたと考えています。HPAIは渡り鳥とともに毎年やってくる可能性のある病気です。命を預かっている動物園として今後も気を引き締めてやっていこうと思います。

(獣医師 池谷)



高病原性鳥インフルエンザ
対応マニュアル

旭川市旭山動物園

出入り車両の消毒箇所(左)と対応マニュアル(右)

主なできごと

12月20日 アムールヒョウ「アテネ(オス)」死亡



12月26日 ホッキョクグマ館で展示しているシロザケの卵の孵化開始



12月28日 アミメキンリ「結(ゆい)」出産

12月30・31日 年末年始休業

令和3年1月1日 年末年始休業

2月5~7日 雪あかりの動物園 開催

2月18日 ゴマファザラシ「カムイ(メス)」死亡



2月21日 ヤギ「かん太(オス)」死亡

2月23日 イボイノシシ「ドゥニア(オス)」死亡



あとがき特別編 還暦を迎えて

赤いちゃんちゃんこならぬ赤いカブトムシのワッペン付きアウトドアベストをいただき、還暦を実感しているこのごろです。もうしばらく旭山動物園で頑張ることになりました。やる以上は目標を持ち、ばく進していくかなければと気を引き締めています。

さて新しい年度が始まりました。まさか、とさえも考えてもいなかった新型コロナウイルス感染症のパンデミックに翻弄されて一年が過ぎました。我々は新型コロナウイルスとどのような形で折り合いをつけていくことになるのでしょうか?長期戦も覚悟しなければいけませんね。こんな状況下でも環境汚染や気候変動の問題は待ったなしの状態です。地球もひどく病んでいるのです。動物園は様々な環境で暮らす野生動物たちを飼育展示しています。自然、野生、環境を知る玄関口です。だからこそできる活動があり発信できるメッセージがあるはずです。環境の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の保全を目標に、旭山動物園は保全のプラットホームの役割を担うことを目指し、一歩一歩確実に活動を具体化し今よりも地球上のすべての生き物が生き生きとできる未来に向かって行動して行きたいと考えています。(園長 坂東元)

最新情報はここでチェック!!



動物園公式
ホームページ



f t i
SNS



セウガム
セウガム



バックナンバー



モユク・カムイ No.108 2021年4月29日

●発行所／旭川市旭山動物園

〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

●発行人／坂東 元 ●表紙絵／中田 真一
●編集集／大内 章広・中村 亮平・中野 奈央也
佐賀 真一・中田 真一

●印 刷／株須田製版：〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2021年3月31日現在

- 哺乳類 43種・304点
- 鳥類 51種・365点
- は虫類 8種・ 20点
- 合計 102種・689点